

社会的活動としてのフィールドワーク

人づきあいで調査も変わる？

Part I

1. ミシヤキ家の居候 —アフリカ農村調査での人づきあい
2. 「鯨捕り」に染まりゆく私 —鯨類の行動学的調査への布石
3. 森の水先案内人 —大型類人猿調査と「トラッカー」

白石壮一郎

関口雄祐

竹ノ下祐二

52

32

12

Part II

4. 新たな調査地への挑戦
そのロマンとサバイバル
5. のこのこと犬ソリにのつて
—北極探検家と行くフィールドワーク
6. これからのはじめ
—フロンティアを目指す人のための温故知新術

福井幸太郎

的場澄人

70

85

澤柿教伸

100

フレードワークとフレード

現場と調査の相互関係

Part III

7. 中国・黄土高原に「カメラマン」として住まう
—カメラを通して複数の眼をとり込む

丹羽朋子

8. 「協働」を生み出すフレード

—廃校をめぐる研究・開発・教育のはざまで

小西公大・門田岳久・杉本淨

9. ふたりの調査助手との饗宴（コンヴィヴィアリティ）

—ウガンダ・アドラー民族の世界観を探る

梅屋潔

137 120

フレードワーカーする私

参与観察のなかでの調査者

Part IV

10. ウガンダでパフォーマーになる—「調べる」と「なる」こと

大門碧

11. フィールドは「どこ」にある？

稻津秀樹

12. ホセさんのまなざしが教えてくれること

椎野若菜

13. フィールドワークという暮らし
—家族、友人、アシスタンントとともに

椎野若菜

編集後記

234

216

198

184

158